



地域のつながり・コミュニティ

メンバーについて

A・・・菓子メーカー営業。

B・・・電鉄会社勤務。

C・・・病院事務勤務。

D・・・医者。大学院にも通学

E・・・生協勤務。

阪神地域のコミュニティについて (メンバーの意見)



若者が気軽に参加できるコミュニティが無い様に思う。
既存のコミュニティに飛び入りで入るのは少し怖い・・・

コミュニティという言葉にピンとこない。
繋がりは希薄になっているように感じる。

フットワークが軽い時なら探すのは容易いけど
子どもができたりした途端大変になる。

地域の人たちと繋がる機会はない。
独居老人や認知症の方の話を聞くと
地域とのつながりが薄いと本当に
大変なのではないかと思う。



阪神地域のコミュニティの問題点まとめ

□ 気軽に参加できるコミュニティがない。

- ・既存のコミュニティに参加することに高いハードルを感じる。
- ・知らない人と会うことにためらいを感じる。
- ・犯罪に巻き込まれるのではないかとという点もためらいに繋がっている。

□ 人と人とのつながりが希薄になっている。

- ・学校や会社以外でのつながりの作り方がわからない。
- ・SNSや通販発達による現実社会のコミュニケーションの必要性の減少。

□ コミュニティに対して興味がない。

- ・他人と関わるメリットを感じない。
- ・地域への愛着の低下。

□ コミュニティを探すのが大変

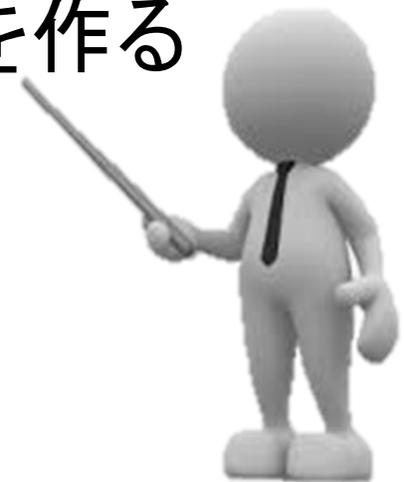
- ・コミュニティを探すツールがない。

□ 単身者の増加

- ・コミュニティ参加のきっかけになる子どもの減少
- ・外に出るのも難しい独居老人の増加

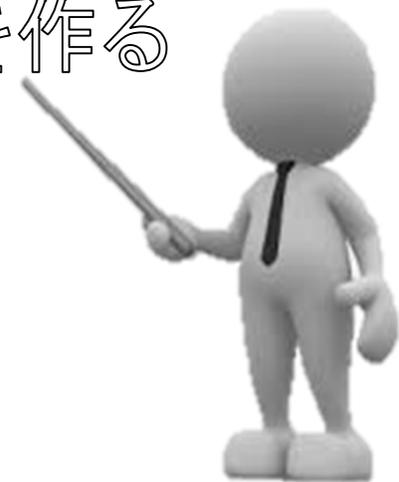
コミュニティについての課題

- 単身者の増加でどのようなつながりを作るか
- コミュニティへの興味をいかに高めるか
- 手軽に・身近に参加できるツールを作る



コミュニティについての課題

- 単身者の増加でどのようなつながりを作るか
- コミュニティへの興味をいかに高めるか
- 手軽に・身近に参加できるツールを作る



■現状の課題について

単身者の増加の原因

◆最大の理由は未婚化・晩婚化

- ・結婚に高いハードルを感じる

(結婚資金・住居・親の承諾・年齢上の問題等)

- ・独身にメリットを感じる

(金銭面・行動の自由・責任の有無・居住地等)

- ・出会いがない

■理想のつながり

単身者の増加でどのようなつながりを作るか

◆結婚しなくても家族のような関係性を築ける

・事実婚や養子の考え方がフランク

◆育児・介護の負担を軽減

・介護や育児対応のロボット活用

◆外国人とのコミュニケーション強化

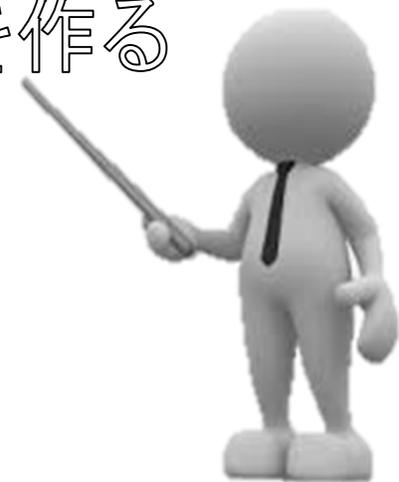
・翻訳機の進化・普及（ポケットーク）

◆バーチャル化

・現実のつながりからオンライン上のつながり強化へ

コミュニティについての課題

- 単身者の増加でどのようなつながりを作るか
- コミュニティへの興味をいかに高めるか
- 手軽に・身近に参加できるツールを作る



■現状の課題について

②コミュニティへの興味を高めるためには

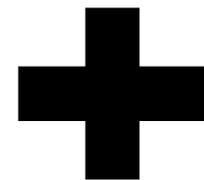
◆興味の細分化への対応

◆知っている人が参加している

◆外の世界が見える

◆まちの特徴が明確

◆楽しそう



阪神地域
“らしさ”
でつながる

コミュニティへの興味を高めるためには

□ 興味の細分化

・以前は情報媒体も少なく、アイドルやゲーム、お笑いなど1つのブームに人気が集まる傾向があった。昨今では情報媒体が増え、同一のカテゴリーでも興味がより細分化される傾向にある。

Ex: 某人気アイドルグループでその中の“〇〇さん推し”等・・・

□ 知っている人が参加している

・全く知らない人ばかりのところに飛び込むよりも知っている人が主催者や参加者である場合が参加しやすい。

□ 外の世界が見える

・自身の知らないことを知れる場合や興味のある分野を深掘する場合にコミュニティへの興味が高まる。

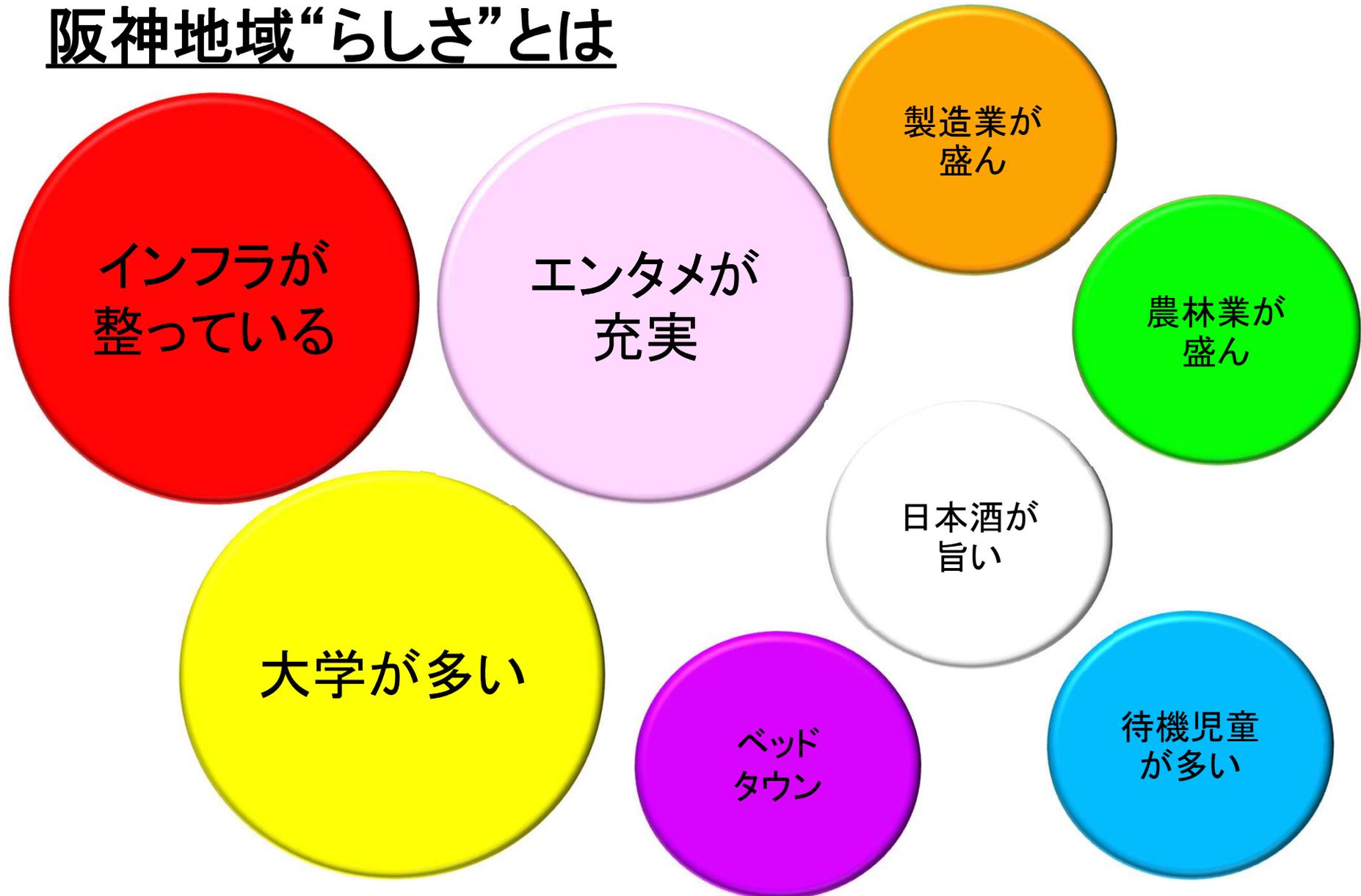
□ まちの特徴が明確

・まちの特徴が明確であることで目にする機会が増え興味が高まる。

□ 楽しそう

■現状の課題について

阪神地域“らしさ”とは



■現状の課題について

阪神地域“らしさ”を活かしたコミュニティ形成

①充実したインフラを活かして…

だれもが気軽に立ち寄れる“行き交うまち”づくり

②エンタメの充実を活かして…

趣味趣向の合うもの同士で分かち合う“出会うまち”づくり

③大学の多さを活かして…

各大学同士・地域が連携し“帰るまち”づくり

□ 行き交うまち

・電車、飛行機、高速とインフラが整っている為、ただ“乗り継ぐまち”ではなく立ち寄り、留まるまちになる。その為には、都会の面も田舎の面も持ち合わせており、農産、畜産物や日本酒、祭りやエンタメ等まち全体の特徴を最大限PRする必要がある。

□ 出会うまち

・演劇、スポーツ、書籍などエンタメが充実しており、多くの人同士でつながることができるまちになる。まったく共通点の無い者同士ではなく、共通の趣味を持った人間同士であるためきっかけがあればつながることは容易である。その為には、エンタメに興味を引くための優待や同趣味の人間がつながることのできる場が必要になる。

□ 帰るまち

「大学で仲のいい友達ができた」というだけでは地域に愛着を持つことはない為、地域の人とのつながりを持つことで地域への愛着を感じ「帰る」という意識に繋がる。その為には、地域の人と膝を突き合わせて考えやってみることが重要になる。地域にある大学同士で連携しさらに地域とも連携することで「帰る」という意識を高める必要がある。

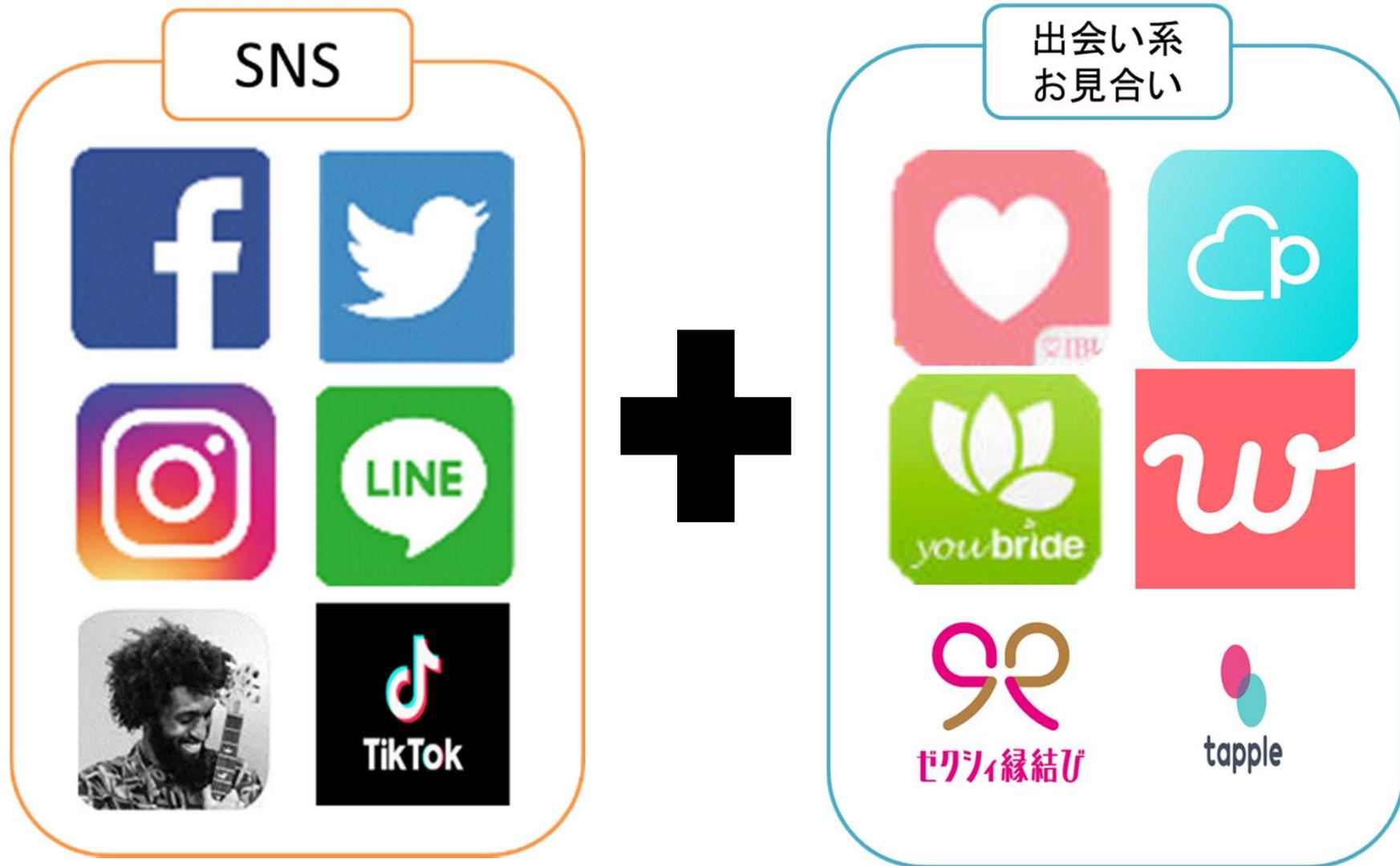
コミュニティについての課題

- 単身者の増加でどのようなつながりを作るか
- コミュニティへの興味をいかに高めるか
- 手軽に・身近に参加できるツールを作る



■メンバーが考える理想のつながり

③手軽に・身近に参加できるツールとは



★コミュニティを形成する「ツール」

◆マッチングアプリ

・・・年齢・性別・恋愛・趣味嗜好以外でも繋がれるアプリ。

【お助けシステム】

子育て: 仕事が忙しくて保育園に迎えに行けない親 ⇔ 子どもと関わりたい人

料理: 晩御飯作る時間がない人 ⇔ 料理を作りすぎてしまった人

教育: 勉強ができない人 ⇔ 教えることで勉強になる人

【グループ作成】

- ・1対1ではつながることができない
- ・同グループ内に〇人以上参加することでグループ作成
- ・それぞれの基本的なルールは運営が決める

【家族的コミュニティ】

- ・年齢、性別がバラバラな人間で集まる
- ・数日家族としてシェアハウスで生活をする
- ・養子やペットの紹介なども行う

■理想のコミュニティ形成

★コミュニティを形成する「場」

人と人とがつながるまち＝「シェアタウン」

・・・年齢・性別・恋愛・趣味嗜好以外でも繋がれるまち

【趣味・嗜好共通番地】

- ・〇〇番地は阪神タイガースファンしか住めない
- ・〇〇アパートに住んでいる人は毎週末全員宝塚に招待
- ・〇〇酒造の酒蔵見学をした人は〇〇町への移住権がもらえる

【優待制度】

- ・まちぐるみで投資を行い、配当金はより自由度の高い税金になる
- ・地域内の大学出身同士で結婚し、居住をした場合は家をプレゼント

【家族的コミュニティ】

- ・年齢性別の違う人同士でのシェアハウスを斡旋
- ・同地域はシェアハウスが密接にありそれぞれ自由に移動も可
- ・養子やペットの紹介なども行う

■メンバーが考える理想のつながり

年	問題	現状の課題	2020年～	2030年～	2040年～	2050年
ツール	コミュニティを探すのが大変。 気軽に参加できる コミュニティがない。	手軽に・身近に 参加できるツールを 作る	お助けシステム	グループ作成	家族コミュニティ	シェアタウン
場	コミュニティに 興味がない。 つながりが希薄。	コミュニティへの興味を いかに高めるか	行き交うまち 帰るまち	出会うまち	家族コミュニティ	
人の動き	単身者の増加 少子化 高齢化	単身者の増加で どのようなつながりを 作るか	オンライン活性化	AI・自動運転の活性化	人とのつながりの 重要性上昇	
			コミュニティツール作成			
			阪神地域らしさを活かしたまちづくり			
			少子化・高齢化・人口減・外国人増加			

ご清聴ありがとうございました

